エコ　二題

２００９年7月８日

０９年度会長を仰せつかって、７月で早、９カ月目。不遇にも、米国のサブプライムローンに端を発する世界同時不況と正面衝突し、残念ながらも有力な製造業会員メンバの脱会・休会が年度首から重なりました。とはいえ、会員増加を目指した新春特別例会は想定外の盛況で、その後の幹事各位のご努力による新規会員獲得活動や、年間通じた製造業の関心深い今日的テーマを軸にした例会企画が奏功し、なんとか減員をカバーしうる新入会員企業を得ることができました。

バリエーション豊かな会員の織りなすカラフルな研究交流を通じ､｢モノづくり上流での知恵の交易所」として、ＫＥＡＣの活動が、ますます活力と魅力溢れるものとなるよう､幹事の皆様方と努めてまいりますので､ＯＢ会メンバの皆様も、例会参加通じて、よろしくご指導いただきますよう、あらためてお願い申し上げます。

なんか、えらく堅苦しくなりましたが、今回テーマの「エコ」について、さしたるトピックやオモロイ話に行き詰っているため、細切れで恐縮ながら「更に固い話」二題をしたためます。

１．エコと標準化

設計行為というのは、それなりに、相当の知的エネルギが必要な行為であり、企業は新たな設計成果物を世に送り出すため､大変なエネルギを消費しています。

エコを計る尺度に｢成果物を生み出す注入エネルギの最少化｣､つまり生産性を挙げることができるなら、やはり、その原点は「標準化」であろう、と信じております。

独創的要素・差別化要素にしっかりエネルギ集中し、そうでないところは過去の設計資産の共用・標準化を計って投入エネルギを最少化すべきです。

特に昨今､製品に含まれる環境負荷物質の低減が企業責務として要求される中､環境適合した部材の採用･利用拡大が必須要件となっており､ここでも適合部品･材料の標準化による最適部材の検索・選択が設計の基盤となっています。

つまり検索･選択のキーになる部材属性が時代によって変遷するものの､｢標準化」を背景とした設計の基本は同じということです。

「標準化の鬼」を勝手に標榜する下名としては、エコを基点に、古いと敬遠されがちな｢標準化｣原理が､企業の中で見直されることを大いに期待しています。

２．エコとエゴ

懸念される地球温暖化を抑制するための温室効果ガスの排出規制は、喫緊の課題として７月のイタリアサミットでも議題として取り上げられました。しかし、現状はいかがなものでしょうか？

ＢＲＩＣｓを代表とする経済発展途上国と先進国との間での駆け引きや国益優先の厚顔なエゴのぶつかりあいが、白日のもと堂々と主張・報道されています。今や小学生でさえモッタイナイ精神が浸透しつつある中、子供たちには見せたくない無恥で近視眼な論争が続き、その子供たちの行く末を、論争の主たる大人たちが脅かしているのです。

総排出量の３０％強を占めるＢＲＩＣｓの内、３カ国は、国益保全がために京都議定書の対象国にもなっていませんが、その中でも著しい格差社会で暴動に見舞われている国などは、誰がための「国益」か？それすら怪しいようです。

個人レベルでは素晴らしい道徳性・人格をもつお国も、国家レベルとなるとそのモラル・品格が極端に低下するのは歴史が教えるところです。この構造の由来解析とその本質洞察による問題打破を進めないと人類の悲劇は終らないと思うのですが、結局は「ごまめの歯軋り」に過ぎず、ハテサテ、自分に何ができるのか自失している現況です。

そんなことを嘆いていながら、７月に電気自動車ミーブ発売する三菱自工の、持ち株株価上昇に大いに期待しているのが自分の器でしょうか。トホホ・・・